

〈資料紹介〉丹波篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻」須磨・明石の巻

岩 坪 健

兵庫県丹波篠山市立歴史美術館に所属される源氏物語絵巻（平成六年八月に市指定文化財）は須磨・明石の巻が伝来し、物語本文を全文掲載している上に、絵の場面設定や描き方が甚だ特異である。

また、奥書などにより、本作品の成立過程が知られる点においても貴重である。当作品の源氏絵史における位置付けなどについては別稿に譲り、本稿では書誌のほか絵を全図掲載する。

本作は卷子本で、須磨の巻も明石の巻も三巻ずつ現存する。表紙はいずれも草花紋で縦四〇・五センチ、横三一・二センチ、金紙の題簽は貼られているが題名は書かれていない。見返しは金箔散らしで、見返しと詞書の間に約三〇センチの遊紙（本文共紙）がある。

詞書の料紙は薄茶色の斐紙で字高は約三一センチ、料紙の裏は一面に雲母引きされている。絵は淡彩で、須磨の巻が全九図、明石の巻が全十図あり、両巻とも第一巻が三図、第二巻が二図ずつ、第三巻

のみ須磨が四図、明石が五図と異なる。詞書と絵の横の長さは中西健治氏が計測されているので、それを転載する。

絵にのみ通し番号（①～）を付し、Ⅰは第一巻、Ⅱは第二巻、Ⅲは第三巻を示す。たとえば「Ⅰ九六・一、①九四・七」は、第一巻で一番目の詞書が九六・一センチ、第一図が九四・七センチを意味する。

須磨の巻、全九図。

Ⅰ九六・一、①九四・七、二七七・五、②一八九・五、二四三・四、

③九一・五

Ⅱ一〇〇・五、④九一・七、三二一、⑤一九一

Ⅲ二七七・三、⑥八八、一五二、⑦九六、一二七・五、⑧九二・五、

七五・八、⑨九四・五

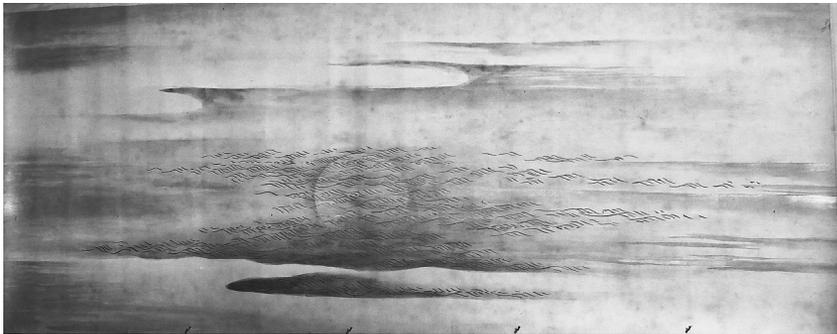
明石の巻、全十図。

- I 二四一、①九六、一〇三・三、②九五・七、一四五・七、③一九一
 一
 II 四〇一、④一九三、一一七・五、⑤一九二
 III 一六三、⑥九六、七五、⑦九六、一四六、⑧九六・五、五四、⑨
 一九四、九〇・五、⑩九六

(注) 中西健治氏「振徳版木館蔵『源氏物語絵巻』について」(『平安文学
 研究』第七七輯、一九八七年五月)。なお振徳版木館は、丹波篠山市
 立歴史美術館の前身である。

以下、絵(全図)と奥書(全文)、間宮信好の文書(全文)、およ
 び詞書(須磨の巻頭)、付属文書(明石③の箇所)を掲載する。明
 石③は明石の巻の第三図を意味する。なお掲載を許可してくださつ
 た丹波篠山市立歴史美術館に、深謝し申し上げます。

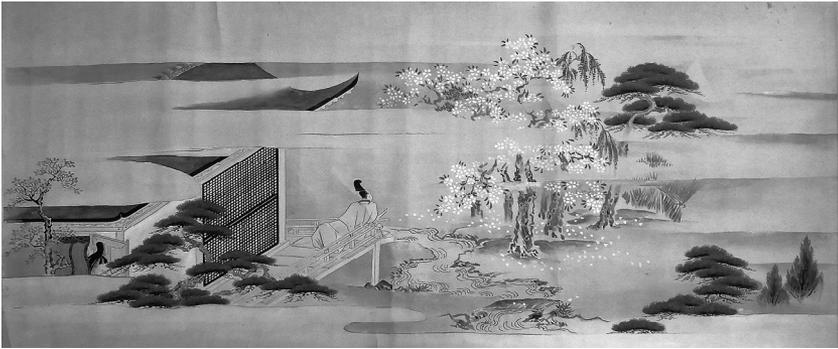
〈資料紹介〉丹波篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻」須磨・明石の巻



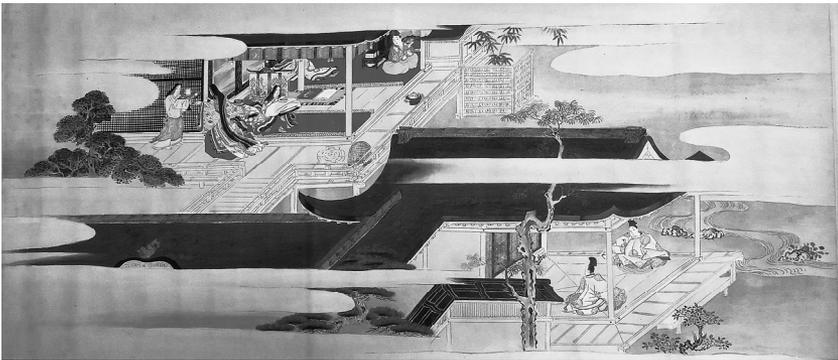
須磨①



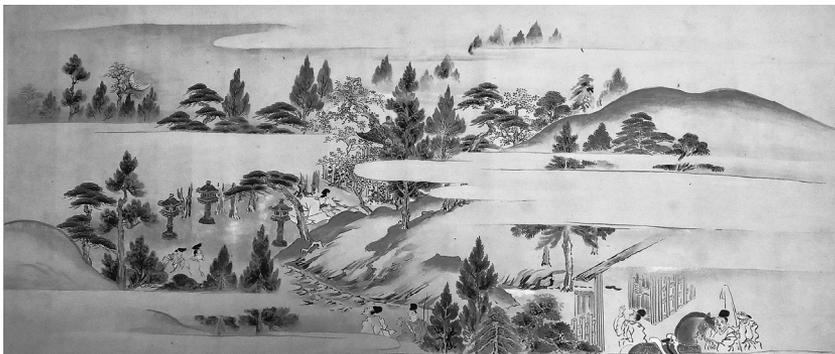
須磨②前半



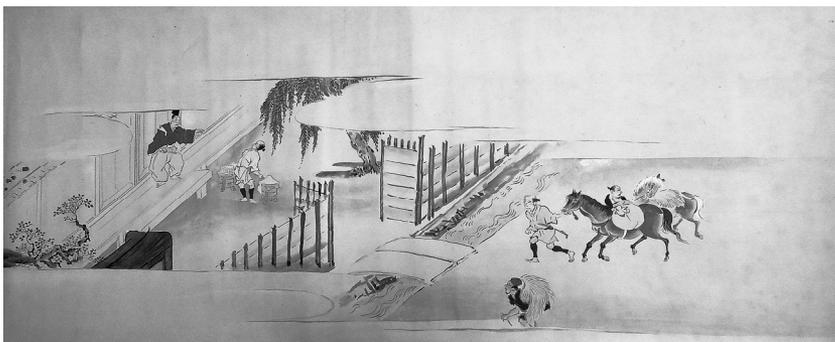
須磨②後半



須磨③



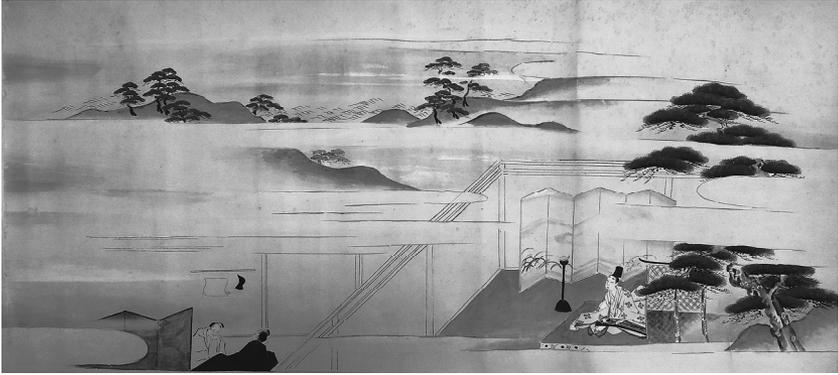
須磨④



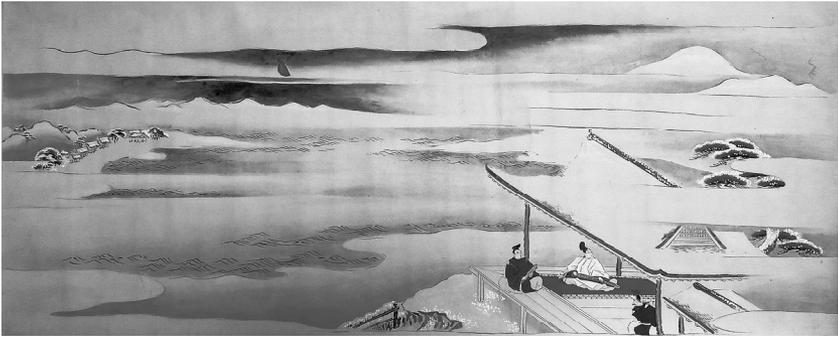
須磨⑤前半



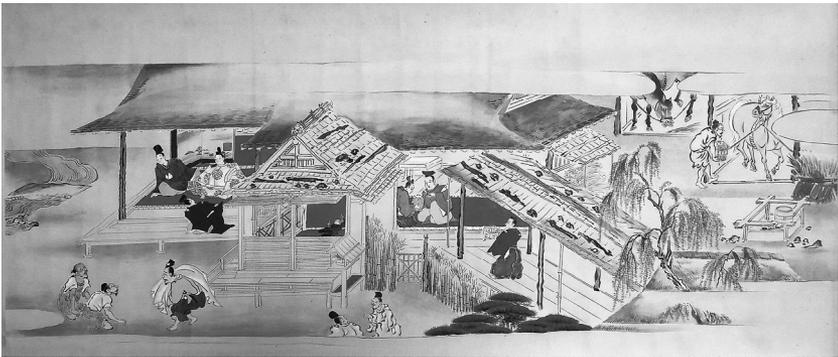
須磨⑤後半



須磨⑥

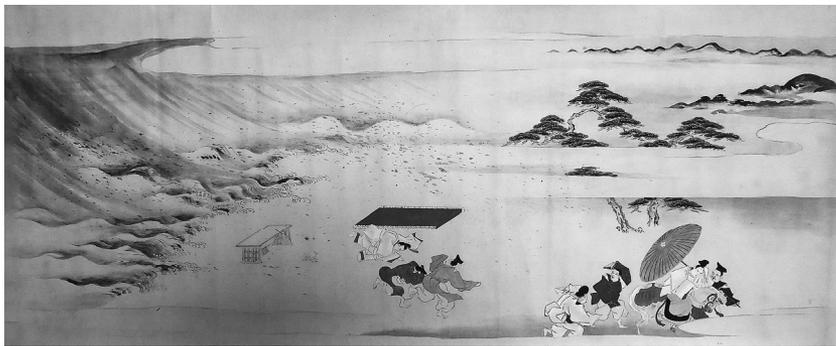


須磨⑦



須磨⑧

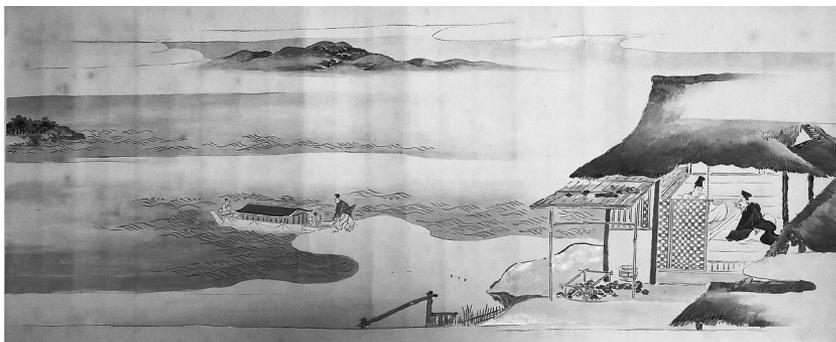
〈資料紹介〉丹波篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻」須磨・明石の巻



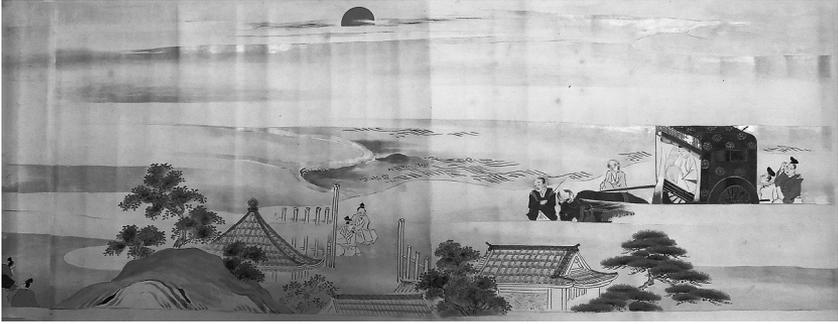
須磨⑨



明石①



明石②



明石③前半

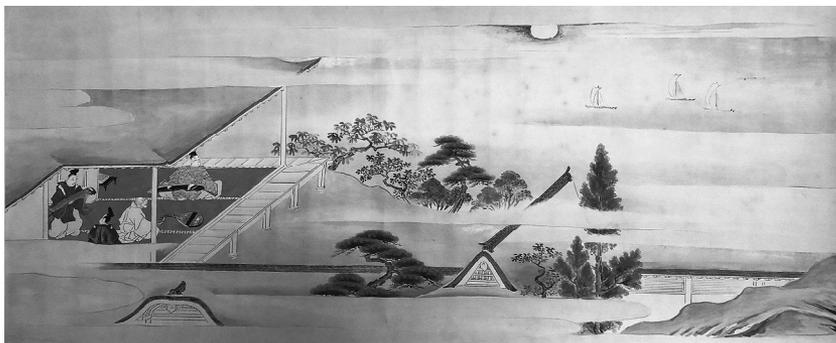


明石③後半



明石④前半

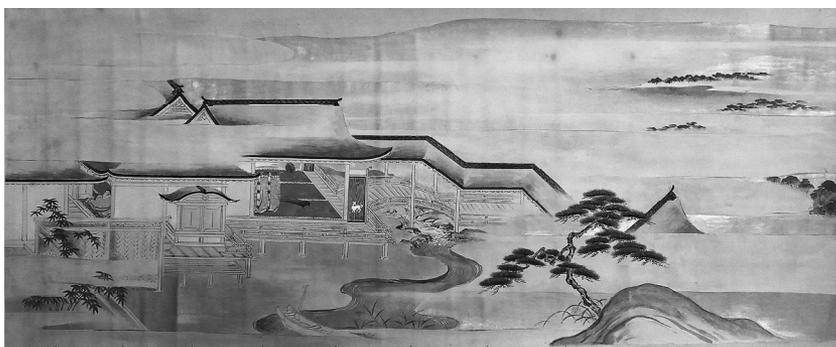
〈資料紹介〉丹波篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻」須磨・明石の巻



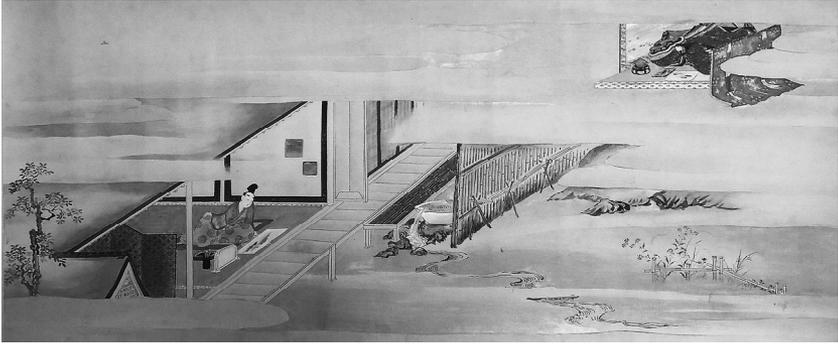
明石④後半



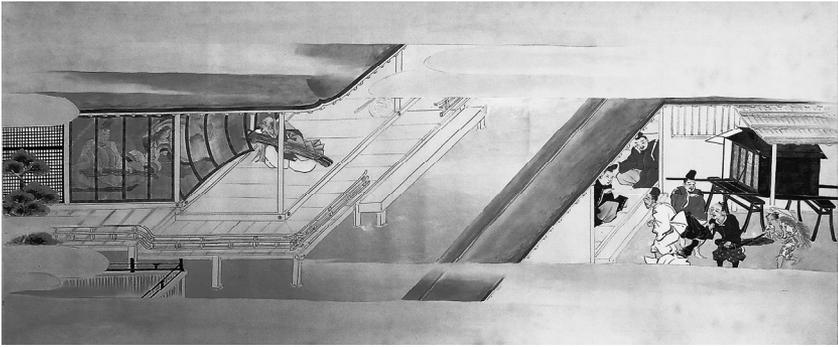
明石⑤前半



明石⑤後半



明石⑥

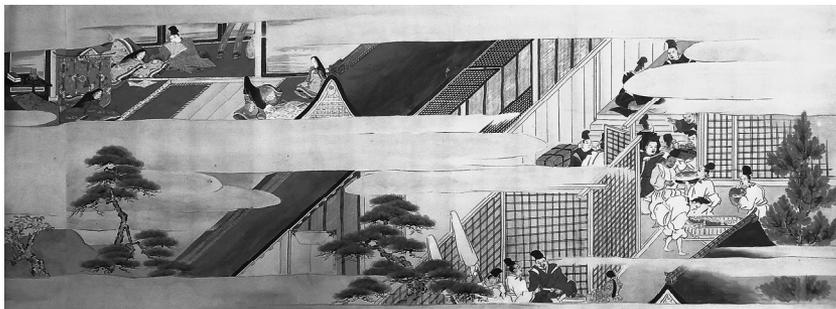


明石⑦

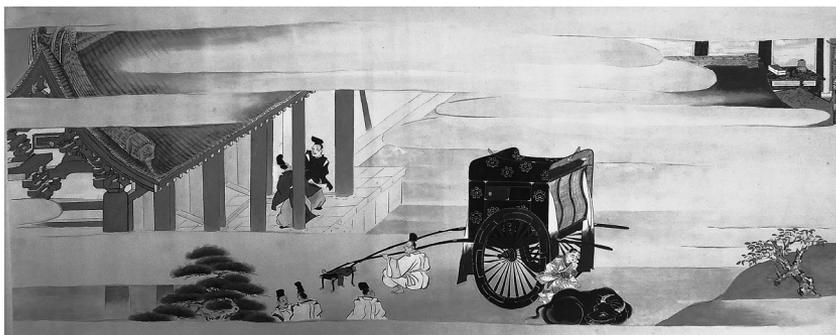


明石⑧

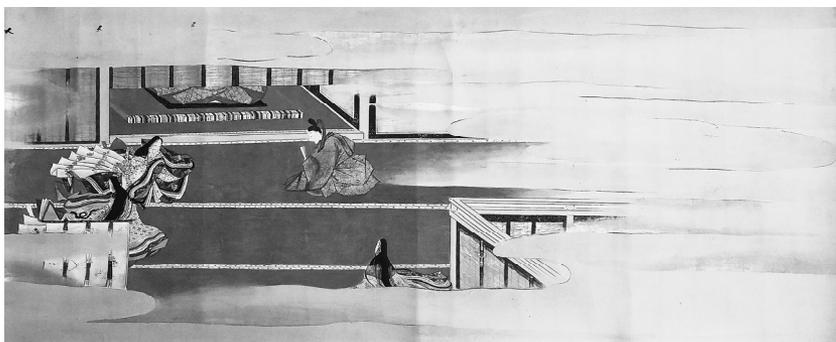
〈資料紹介〉丹波篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻」須磨・明石の巻



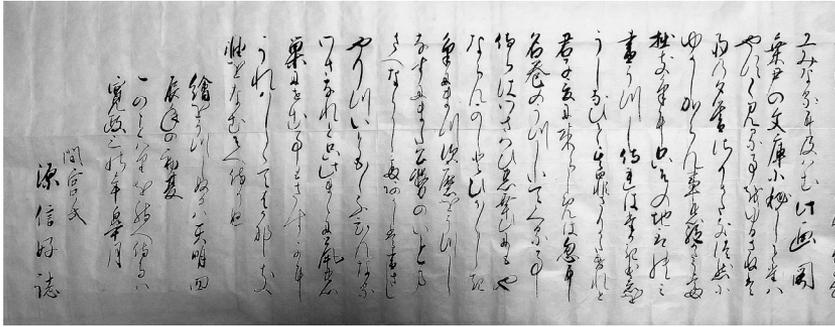
明石⑨前半



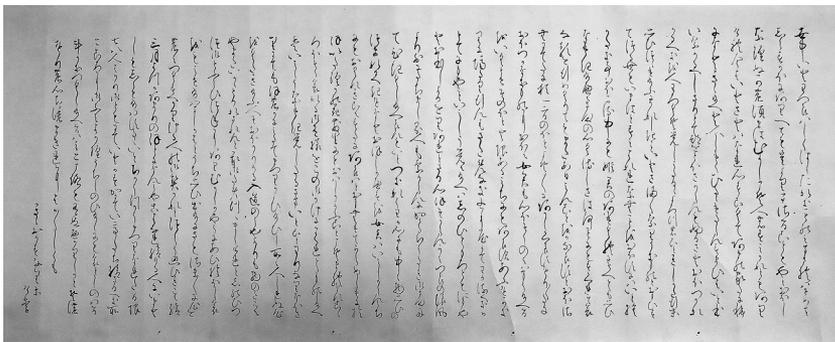
明石⑨後半



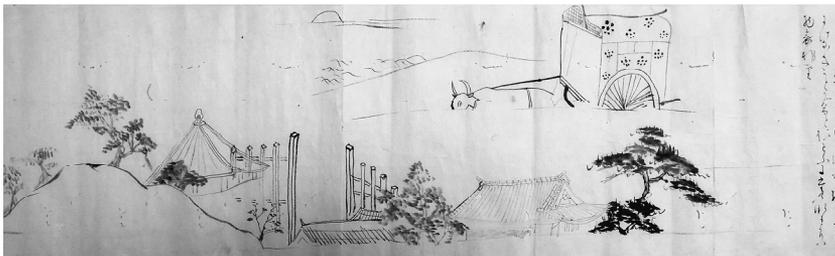
明石⑩



間宮信好の文書（後半）



詞書（須磨の巻頭）



付属文書（明石③の箇所）